

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	239340060		
法人名	有限会社 ふなびきメディカル		
事業所名	グループホームかがやき		
所在地	〒484-0064 愛知県犬山市前原西3丁目35番2		
自己評価作成日	平成29年10月29日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユニバーサルリンク		
所在地	〒463-0035 愛知県名古屋守山区森孝3-1010		
訪問調査日	平成29年11月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念にある「一人ひとりが笑顔でその人らしく生活して頂けるように」をモットーに、スタッフ全員で御一人お一人を支援するように心掛けています。日々のケアの中で一人ひとりに対して 問題・疑問が生じた場合などは スタッフ同士で話し合いを行い 解決策を見出しながらその人の生活が快適に過ごして頂けるよう取り組んでいます。季節の行事や 歌を歌ったり 散歩や外出などを行うことにより 日々の暮らしがマンネリ化にならないようにし 笑顔溢れる生活を送って頂けるようにしています。又、経営母体に有床診療所が併設されており 医療と連携することにより 健康で安心して過ごして頂けます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域に根差したクリニックが母体であり、その介護部門として、法人を設立し、訪問介護・看護、老健・ショートステイ・デイケア、ケアマネセンター、住宅型有料老人ホーム、等を擁する総合介護施設である。昨年度の目標達成計画で掲げた「認知症の理解・情報発信」の実現化のため、地域包括センターと協働し、3月に「認知症サポーター養成講座」を開催することになった。褥瘡による入院から帰ってくると、前より悪化していて、そのため部屋に閉じこもりがちになった入居者も、刺激を与えリビングに誘い出し、エアマットなども使用し、また訪問看護と常に連携し、回復した入居者もある。その陰には「かかとまで褥瘡が広がっていたが、管理者が工夫して、車いすの足置き板にまで手製のクッションを備え付け、劇的に回復しました。」と職員から聴取され、見えないところに気配りする管理者、それを見逃さない職員の良好な関係が窺われた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

己	部外	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔でその人らしく生活をして頂く」を理念に、日頃よりスタッフと話し合いを持ちながら日々のサポートへ活かしている	「笑顔でその人らしく生活して頂く」を理念として掲げ、一人一人の特性に合わせた支援を心がけている。入院中に褥瘡が悪化し、ADLが低下した入居者も、母体のクリニック医師・訪問看護と連携し、入浴時の洗浄・看護師による消毒の結果、退院時より格段に回復した入居者も居る。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	推進会議に地元自治会、老人会に参加を呼び掛けている。地元自治会のウォーキングや幼稚園の餅つき見学、藤の花見学など参加している。	目の前の幼稚園は、季節になると「藤の花」を鑑賞に行き、その都度園児とも触れ合っている。地域のウォーキング大会には、母体クリニックも協賛し、粗品を提供している。地域老人会に運営推進会議参加を呼び掛けているが、同会議報告書は、老人会長の計らいで、毎回地域に回覧されている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の見学・来設を自由に受け入れているが認知症に対する理解・支援の方法・助言の発信までは至っていない。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて日々の活動報告と共に 避難訓練の実施や推進会議の報告書を作成し欠席者には配布している。欠席される家族様からのご意見等について運営推進会議にて報告話し合いを行う場合もある。	市長寿課職員・地域包括職員・家族・職員をメンバーとして、年6回の開催が確認された。老人会会長にメンバーを打診しているが、高齢のためか受託に至っていない。しかし同会議報告書は毎回届けられ、「いずれは私たちもお世話になる身だから。」と会長の計らいで地域に回覧されている。高校生の学習受入れ・小学生の『地域探検隊』も受け入れている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入所についての困難事例の相談や、運営推進会議以外でも情報提供をして頂いている。介護相談員も受け入れており、利用者の相談相手になっていただいている。	運営推進会議には、警察による防犯・消防によるAED講習会が開催され、参加メンバーから好評を博している。現在、地域包括センターと協働して、『認知症サポーター養成講座』を企画しており、訪問時にも、包括センターから問い合わせの電話があった。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期のミーティングの際に勉強会を開催し、事例の検討 禁止行為の認識 再確認をし理解に努めている。身体拘束の必要時はカンファにて再検討している。	昨年『期待したい事項』として掲げられた各ユニット入口の電子錠も解放され、入居者は自由に出入りしている。現在車いすで、立ち上がりのため、転倒が危惧される入居者に対し、拘束帯が使用されているが、医師から家族に対し、危険性・必要性が説明され、家族同意の下、定期的に見直しがされている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期ミーティングの勉強会や事業所開催の勉強会に参加し 知識 意識の向上に努めている。事業所内での取り組み方についての様子など トップ会議での情報交流もGHミーティングにて参考にしている。	

己	自	外	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8			○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は対象者はいないが、定期的に勉強会を開催し制度の理解を深めている。		
9			○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分に説明し承諾を得ているが、後日不安や疑問が生じた際にはその都度質問や問い合わせに対応している。		
10	(6)		○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に普段の様子を報告しながら要望についても聞けるよう心がけている。問題や課題は毎朝の朝礼時や月1回のミーティングにて話し合い運営推進会議の出欠用紙に意見、要望を伺う用紙を配布している。	面会時に、家族に日常の様子が報告されるほか、運営推進会議案内書には出欠欄のほか、家族の要望欄があり、様々な意見が寄せられている。「最近食が細くなった」との声には、補助食で対応し、毎月届くホーム便りには「活動の写真ありがとう」との声が寄せられている。	
11	(7)		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者へは、問題・事例発生時毎及び発生の際の恐れがある場合など 月1回の法人全体の会議時に意見や提案をしている。各スタッフには申し送り ミーティング時に自由に意見を出せる機会を設け話し合いをしながら対応している。	日常変化があれば毎日のミーティングで提案され、個人的な思い込みか、他の職員も気づいているのか吟味され、常に検討されている。「爪のはがれ」に気づいた職員の報告は全員に回覧され、訪問看護師により消毒された記録が確認された。	
12			○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は就業規則に基づき 職員がやりがいや向上心が持てるような職場環境となるよう配慮している。週2回～3回ホームを訪れ職場環境を把握職員に声掛けをしている。		
13			○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者より 実践者研修や県主催の研修等外部の研修参加の案内 参加推進への働き掛けあり可能な限り参加させていただいている。又、法人内の研修についても不定期だが実施されている		
14			○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所、ボランティアの施設見学の受け入れや、営業活動の際の情報交換 相談を行い相互の取り組みや困難事例の対処法についての意見交換などの交流する機会を設けている。		

己	自	部	外	項目	自己評価	外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15				○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人面談時にアセスメントを行い 本人のニーズをカンファなどで議題とし職員同士にて話し合いサービスにつなげている。家族の承諾を得て面会に行き信頼関係を築き 安心して入所できる関係をつくっている。		
16				○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学時、契約時にアセスメントを行い家族のニーズをサービスにつなげている。本人面談後も家族から自宅での様子や今後についても話を聞き気軽に相談できる関係作りを行っている。		
17				○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が今何が必要なのかの要望を情報収集しできる限りの対応をしている。必要に応じて他事業所(他施設 居宅 包括)に相談している。		
18				○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の業務(食事 配膳準備 掃除 洗濯干し)を職員と共に行っている。日常生活においては 先輩として利用者からいろいろな知識を得て日々の業務に生かしている。		
19				○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加や 面会時に話をする機会を持ち家族の思いを聞いたりホームからも相談を持ち掛けることを行いながら 共に支援できるような心がけている。		
20	(8)			○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前に行っていた場所、お店等できるだけ要望に沿えるよう心がけている。必要に応じて外出支援を行っている。	本が好きで昔よく図書館に通っていた入居者を、図書館にお連れした。入居者はほとんど地域住民で、通いなれた喫茶店などへ出かけている。1人の入居者は趣味の仲間が4人程、他にもご近所の知り合いが3人程で訪れる入居者も居る。	
21				○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が不安 心配事ができた際には仲の良い方との交流を勧めたり 活躍できる場所を職員で話し合い生かせるようにし 皆が生活を楽しめるように支援している。		

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時のお見舞いや電話連絡を通じ、家族との情報を共有している。退所された家族様との交流もあり近隣の要介護者の相談や施設見学の案内も行った。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望が自由に伝えられるようにコミュニケーションを多く持てるような環境整備を行なっている。家族からも情報提供を受けながら対応できるようにしている。	昔暮らしした田舎の生活を懐かしみ、「帰りたい」と呟く入居者も居る。アセスメントで聴取した、「塗り絵・工作・手芸」の生活歴を活かし、レクリエーションに取り組む入居者も居る。本人の意向確認が難しい場合は家族に相談している。日々の職員の気づきは、ミーティングに上程され、申し送りノートで情報共有されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人とのコミュニケーションや家族からの情報から生活歴・好き嫌いやできる事を把握しその人に合った日常生活が送れるよう心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録に1日の行動・言動・身体・精神状況を記録し、情報を共有している。必要に応じ申し送り、ミーティング等で話し合い 対応を検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族の要望・意見を踏まえ、職員で話し合い 現状に合った計画を作成するように心がけている。本人の身体状況など記録に残し状態変化の際は その都度に計画変更をしている。	計画は年2回見直しとされ、3か月ごとにモニタリングされている。カンファレンスには家族も参加し、要望・意見を聴取し、現状・計画の説明は、計画作成担当者が行っている。車いす使用となった入居者の家族から、「もう一度歩かせたい」と希望され、その危険性も説明したうえで、リハ強化をプランに盛り込んだ例もあった。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活状況を記録し、行動 言動 健康状態 精神状態を記録し、申し送りやミーティングにて 個別カンファを行い情報共有し、介護計画の見直しの参考にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や図書館への外出支援や家族の要望・状況に応じて対応している。同一法人内の併設施設とも常に交流を持ち 他のニーズにも対応している。		

己	自	部	外	項目	自己評価	外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29				○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民の見学・来設を自由に受け入れている。ボランティアを受け入れ歌や文化、趣味など楽しみが持てるような支援をしている。		
30	(11)			○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同一敷地内の医療機関からの往診や、24時間体制での医療支援を行っている。家族の希望での他科受診(歯科 眼科 など)の通院支援を行っている。	同敷地内に提携クリニックがあり医療行為が必要な場合や相談に対応している。希望により訪問看護や訪問歯科診療、訪問眼科診療を受けている入居者もいる。他所へ受診する場合は家族付き添いをお願いしている。	
31				○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との24時間の連絡体制を確保している。体調の変化等については随時報告し 対応についても相談している。		
32				○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	同一敷地内での入院に関しては 常に情報を受け 対応を相談している。他病院の際は定期的に訪問し 病院担当者、家族との情報交換を行い 症状が安定した際は受け入れを早期に行なっている。		
33	(12)			○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調の変化に関しての随時報告を家族に行い 医師の状態説明後や重度化した際 終末期までの状態や予想される経緯について 本人・家族・スタッフと話し合いを随時行い支援の在り方の相談している。	入居時に緊急時搬送先を確認している。医療行為が必要で入院する場合は提携クリニック又は希望している病院へ紹介している。看取りは一例あり、家族にホームでできる行為を説明し、状態が変化することに医師、看護師、スタッフ、と家族でカンファレンスを行い支援していった。	
34				○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回、AEDの実践・救急対応の訓練を行っている。事故発生時・救急時の対応についても勉強会を行っている。		
35	(13)			○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人の災害対策に基づき、防災訓練を行い消火方法を学んでいる。ホームでの避難訓練も単独で行い、非常食についての確認も行っている。消防署の方の立ち合いにて訓練も行っている。	火災の場合、水害の場合を想定して避難訓練を行っている。同敷地内に介護老人保健施設や、通所介護事業所があり避難先となっているが消防署や警察署関係との連携強化を努力中である。	

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の行動についても把握し、トイレ誘導の際にはさりげない声掛けを行っている。居室への入室の際は 利用者に許可を得て入室し、ノックをしての入室を心掛けている。	居室のドアに名前が明示してある。ホーム便りには入居者の写真が掲載されているがどちらも個人情報許可、写真撮影、掲載許可を受けている。居室入室の場合にはノックをして許可を受けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望が自由に伝えられるようにコミュニケーションを多く持てるような環境整備を行なっている。家族からも情報提供を受けながら対応できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	入浴など本人の拒否があった際は入浴日を変更し自己決定できるよう心掛けている。何もすることがないと訴えがあれば 歌と一緒に歌ったり 散歩に出かけたりし、生活に楽しみが持てるような支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望にそって理美容院を利用している。季節に応じた衣類を着ていただき、衣類の衣替え時期には家族様への依頼もしている。化粧をされている方もいるため、見守りを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝に当日のメニューの紹介、説明を行い食事に楽しみを持てるようにしている。おやつ作りも行い楽しんで頂いている。食事のセッティング 片付け手伝いも行っている。	昼、夕食は同敷地内の施設で、献立作成、調理されている。朝食のみホームのスタッフが献立し調理している。入居者の状態に合わせてトロミを付けたり、刻みを入れている。おやつや食卓の準備は手伝ってもらっている。入居者には馴染みの食器類を持参してもらった様勧めしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量は、個々の個人記録に記載し 摂取が少ない方には法人内の管理栄養士や看護師に相談し改善できる取り組みもしている。食事の拒否があっても 時間を変更し召し上がっていただけるよう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後 口腔内の洗浄や歯磨きを行い、ご自身のできる事は見守りし、できないところだけ介助を行うようにしている。連携している歯科医の先生にも相談し口腔ケアの見直しも行っている		

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に応じて声掛け・定期的なトイレ誘導をおこなっている。生活リズムに合わせ夜間ポータブルトイレの設置もしている。排泄チェック表も作成し本人の排泄パターンの把握に努めている。	それぞれの排泄パターンを把握し声掛けや、誘導を行っている。便秘や下痢、尿量減少の場合は医師や、訪問看護師に相談して早めに対処している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や散歩を取り入れて運動する機会を作っている。食事や水分量も個々に合わせて嚥下しやすいようにトロミをつけたり 食物によって刻んでいる。便秘時には医師や看護師と相談し、対応改善を常に行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は、水 日以外の午後と決まっているが利用者の希望に合わせる事もしている。入浴拒否が強い方には 拒否の理由を探り 時には職員の交代や後日への変更も行っている。	週に二回程入浴してもらっている。その日の体調や気分により変更されることもある。各人の身体機能により、全身シャワー浴か一般浴槽使用かを選んでいる。同性介護にはこだわらないが希望があれば対応している。行事湯も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の習慣を生かし、好きな時間に休んでいた。夜間寝付けない方には、無理に寝かせず一緒に茶を飲んで話を聞いたり 話をしたりして過ごしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に薬剤情報をファイルし、スタッフにて確認 把握できるようにしている。服薬後の状態については 看護師に報告している。法人内の薬剤師にも報告し状態把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で 洗濯干しや食事の準備の手伝い ゴミ捨てなど 個々のできる事に合わせ 毎日の習慣として職員と共に行っている。パズルや短歌 読書など本人が楽しめるような環境作りを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気がいい日は、ホームの外周の散歩を行っている。外での体操やゲーム 歌を歌ったりもしている。花見 紅葉見学や、喫茶店への外出も行っている。車でドライブも行っている。	散歩やおやつや買い物、喫茶店等はスタッフが付き添って出かける。図書館に出かけることもある。墓参りや美容室等の個人的な外出には家族にお願いしている。	

己	自	部	外	項目	自己評価	外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50				○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	立替金にて対応しているが、お金がないと不穩になる方もいるため持参している方には居室での紛失等ないように気を付けている。		
51				○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話を使用して頂いたり相手方からの電話については本人に繋いでいる。手紙のやりとりはできていない。		
52	(19)			○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有フロア一窓から外を眺め その時々々の季節を感じていただける。居室がわからなくなる方には、目印になる花飾りなどを付け自身の居室だと安心して頂けるようにしている。季節によって花や天井 壁に飾りつけをしている。	平屋建てで両ユニットはリビングダイニングが隣り合わせになりドアで行き来できる。陽当たりがよくウッドデッキにはテーブルと椅子が置いてある。ホールには食事や作業用のテーブルが2台、テレビの前にソファが2脚あり、各々の好みの場所で過ごしている。室内には入居者の作品が飾られている。	
53				○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのソファでテレビを見ていただいたり、居室で読書や、折り紙など作成されたりしている。計算問題や塗り絵など自由にできるようにフロアに設置している。		
54	(20)			○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に今までに使い慣れた家具や、食器などを持参して頂き少しでも安心した生活環境で暮らして頂けるよう配慮している。居室内に家族写真や本人が好きなものを掲示・設置している。	家具、寝具類は各人の好みに合わせて持参してもらっている。居室のドアの上には居室者の名札がかけてあるが自室を間違える入居者には造花や飾り物で対応している。	
55				○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室やトイレ 廊下などには手すりを設置している。居室には名札や花などの飾りをつけてわかりやすくし、自由に居室への出入りができるようにしている。歯磨きなど本人が把握できる場所になっている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393400060		
法人名	有限会社 ふなびきメディカル		
事業所名	グループホームかがやき		
所在地	〒484-0064 愛知県犬山市前原西3丁目35番2		
自己評価作成日	平成29年10月29日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユニバーサルリンク		
所在地	〒463-0035 愛知県名古屋守山区森孝3-1010		
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念にある「一人ひとりが笑顔でその人らしく生活して頂けるように」をモットーに、スタッフ全員で御一人お一人を支援するように心掛けています。日々のケアの中で一人ひとりに対して 問題・疑問が生じた場合などは スタッフ同士で話し合いを行い 解決策を見出しながらその人の生活が快適に過ごして頂けるよう取り組んでいます。季節の行事や 歌を歌ったり 散歩や外出などを行うことにより 日々の暮らしがマンネリ化にならないようにし 笑顔溢れる生活を送って頂けるようにしています。又、経営母体に有床診療所が併設されており 医療と連携することにより 健康で安心して過ごして頂けます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

己	自	部	外	項目	自己評価	外部評価		
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営								
1		(1)		○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔でその人らしく生活をして頂く」を理念に、日頃よりスタッフと話し合いを持ちながら日々のサポートへ活かしている			
2		(2)		○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	推進会議に地元自治会、老人会に参加を呼び掛けている。地元自治会のウォーキングや幼稚園の餅つき見学、藤の花見学など参加している。			
3				○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の見学・来設を自由に受け入れているが認知症に対する理解・支援の方法・助言の発信までは至っていない。			
4		(3)		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて日々の活動報告と共に 避難訓練の実施や推進会議の報告書を作成し欠席者には配布している。欠席される家族様からのご意見等について運営推進会議にて報告話し合いを行う場合もある。			
5		(4)		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入所についての困難事例の相談や、運営推進会議以外でも情報提供をして頂いている。介護相談員も受け入れており、利用者の相談相手になっていただいている。			
6		(5)		○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期のミーティングの際に勉強会を開催し、事例の検討 禁止行為の認識 再確認をし理解に努めている。身体拘束の必要時はカンファにて再検討している。			
7				○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期ミーティングの勉強会や事業所開催の勉強会に参加し 知識 意識の向上に努めている。事業所内での取り組み方についての様子など トップ会議での情報交流もGHミーティングにて参考にしている。			

己	自	部	外	項目	自己評価	外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8				○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は対象者はいないが、定期的に勉強会を開催し制度の理解を深めている。家族が高齢化してきているため 対象とみられる家族には常に相談できる環境を整えている		
9				○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分に説明し承諾を得ているが、後日不安や 疑問が生じた際には その都度質問や問い合わせに対応している。		
10	(6)			○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に普段の様子を報告しながら 要望についても聞けるよう心がけている。問題や課題は毎朝の朝礼時や月1回のミーティングにて話し合い運営推進会議の出欠用紙に意見、要望を伺う用紙を配布している。		
11	(7)			○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者へは、問題・事例発生時及び発生の際の恐れがある場合など 月1回の法人全体の会議時に意見や提案をしている。各スタッフには申し送り ミーティング時に自由に意見を出せる機会を設け話し合いをしながら対応している。		
12				○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は就業規則に基づき 職員がやりがいや向上心が持てるような職場環境となるよう配慮している。週2回～3回ホームを訪れ職場環境を把握職員に声掛けをしている。		
13				○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者より 実践者研修や県主催の研修等外部の研修参加の案内 参加推進への働き掛けあり可能な限り参加させていただいている。又、法人内の研修についても不定期だが実施されている		
14				○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所、ボランティアの施設見学の受け入れや、営業活動の際の情報交換 相談を行い相互の取り組みや困難事例の対処法についての意見交換などの交流する機会を設けている。		

己	自	部	外	項目	自己評価	外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15				○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人面談時にアセスメントを行い 本人のニーズをカンファなどで議題とし職員同士にて話し合いサービスにつなげている。家族の承諾を得て面会に行き信頼関係を築き 安心して入所できる関係をつくっている。		
16				○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学时、契約時にアセスメントを行い家族のニーズをサービスにつなげている。本人面談後も家族から自宅での様子や今後についても話を聞き気軽に相談できる関係作りを行っている。		
17				○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が今何が必要なのかの要望を情報収集しできる限りの対応をしている。必要に応じて他事業所(他施設 居宅 包括)に相談している。		
18				○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の業務(食事 配膳準備 掃除 洗濯干し)を職員と共に行っている。日常生活においては 先輩として利用者からいろいろな知識を得て日々の業務に生かしている。		
19				○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加や 面会時に話をする機会を持ち家族の思いを聞いたりホームからも相談を持ち掛けることを行いながら 共に支援できるよう心がけている。		
20	(8)			○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前に行っていた場所、お店等できるだけ要望に沿えるよう心がけている。必要に応じて外出支援を行っている。		
21				○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が不安 心配事ができた際には仲の良い方との交流を勧めたり 活躍できる場所を職員で話し合い生かせるようにし 皆が生活を楽しめるように支援している。		

己	自	部	外	項目	自己評価	外部評価		
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22				○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時のお見舞いや電話連絡を通じ、家族との情報を共有している。退所された家族様との交流もあり近隣の要介護者の相談や施設見学のご案内も行った。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント								
23	(9)			○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望が自由に伝えられるようにコミュニケーションを多く持てるような環境整備を行なっている。家族からも情報提供を受けながら対応できるようにしている。			
24				○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人とのコミュニケーションや家族からの情報から生活歴・好き嫌いやできる事を把握しその人に合った日常生活が送れるよう心掛けている。			
25				○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録に1日の行動・言動・身体・精神状況を記録し、情報を共有している。必要に応じ申し送り、ミーティング等で話し合い 対応を検討している。			
26	(10)			○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族の要望・意見を踏まえ、職員で話し合い 現状に合った計画を作成するように心がけている。本人の身体状況など記録に残し状態変化の際は その都度に計画変更をしている。			
27				○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活状況を記録し、行動 言動 健康状態 精神状態を記録し、申し送りやミーティングにて 個別カンファを行い情報共有し、介護計画の見直しの参考にしている。			
28				○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や図書館への外出支援や家族の要望・状況に応じて対応している。同一法人内の併設施設とも常に交流を持ち 他のニーズにも対応している。			

己	部	外	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民の見学・来設を自由に受け入れている。ボランティアを受け入れ歌や文化、趣味など楽しみが持てるような支援をしている。		
30	(11)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同一敷地内の医療機関からの往診や、24時間体制での医療支援を行っている。家族の希望での他科受診(歯科 眼科 など)の通院支援を行っている。		
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との24時間の連絡体制を確保している。体調の変化等については随時報告し 対応についても相談している。		
32			○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	同一敷地内での入院に関しては 常に情報を受け 対応を相談している。他病院の際は定期的に訪問し 病院担当者、家族との情報交換を行い 症状が安定した際は受け入れを早期に行なっている。		
33	(12)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調の変化に関しての随時報告を家族に行い 医師の状態説明後や重度化した際 終末期までの状態や予想される経緯について 本人・家族・スタッフと話し合いを随時行い支援の在り方の相談している。		
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回、AEDの実践・救急対応の訓練を行っている。事故発生時・救急時の対応についても勉強会を行っている。		
35	(13)		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人の災害対策に基づき、防災訓練を行い消火方法を学んでいる。ホームでの避難訓練も単独で行い、非常食についての確認も行っている。消防署の方の立ち合いにて訓練も行っている。		

己	自	部	外	項目	自己評価	外部評価		
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援								
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている			利用者の行動についても把握し、トイレ誘導の際には さりげない声掛けを行っている。居室への入室の際は 利用者に許可を得て入室し、ノックをしての入室を心掛けている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている			本人の思いや希望が自由に伝えられるようにコミュニケーションを多く持てるような環境整備を行なっている。家族からも情報提供を受けながら対応できるようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している			入浴など本人の拒否があった際は入浴日を変更し自己決定できるよう心掛けている。何もすることがないとの訴えがあれば 歌と一緒に歌ったり 散歩に出かけたりし、生活に楽しみが持てるような支援を心掛けている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している			希望にそって理美容院を利用している。季節に応じた衣類を着ていただき、衣類の衣替え時期には家族様への依頼もしている。髭剃りなどできるところまで見守りを行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			朝に当日のメニューの紹介、説明を行い食事に楽しみを持てるようにしている。おやつ作りも行い楽しんで頂いている。食事のセッティング 片付け手伝いも行っていたい。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			摂取量は、個々の個人記録に記載し 摂取が少ない方には法人内の管理栄養士や看護師に相談し改善できる取り組みもしている。食事の拒否があっても 時間を変更し召し上がっていただけるよう配慮している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている			毎食後 口腔内の洗浄や歯磨きを行い、ご自身のできる事は見守りし、できないところだけ介助を行うようにしている。連携している歯科医の先生にも相談し口腔ケアの見直しもを行っている			

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に応じて声掛け・定期的なトイレ誘導をおこなっている。生活リズムに合わせて夜間ポータブルトイレの設置もしている。排泄チェック表も作成し本人の排泄パターンの把握に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や散歩を取り入れて運動する機会を作っている。食事や水分量も個々に合わせて嚥下しやすいようにトロミをつけたり 食物によって刻んでいる。便秘時には医師や看護師と相談し、対応改善を常に行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は、水 日以外の午後と決まっているが利用者の希望に合わせる事もしている。入浴拒否が強い方には 拒否の理由を探り 時には職員の交代や後日への変更も行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の習慣を生かし、好きな時間に休んでいただいている。夜間寝付けない方には、無理に寝かせず一緒にお茶を飲んで話を聞いたり 話をしたりして過ごしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に薬剤情報をファイルし、スタッフにて確認 把握できるようにしている。服薬後の状態については 看護師に報告している。法人内の薬剤師にも報告し状態把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で 洗濯干しや食事の準備の手伝い ゴミ捨てなど 個々のできる事に合わせ 毎日の習慣として職員と共に行っている。パズルや短歌 読書など本人が楽しめるような環境作りを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気がいい日は、ホームの外周の散歩を行っている。外での体操やゲーム 歌を歌ったりもしている。花見 紅葉見学や、喫茶店への外出も行っている。車でのドライブも行っている。		

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	立替金にて対応しているが、お金がないと不穩になる方もいるため持参している方には居室での紛失等ないように気を付けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話を使用して頂いたり相手方からの電話については本人に繋いでいる。手紙のやりとりはできていないが、手紙を受けた際には代読を支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有フロアー窓から外を眺め その時々季節を感じていただける。居室がわからなくなる方には、目印になる花飾りなどを付け自身の居室だと安心して頂けるようにしている。季節によって花や天井 壁に飾りつけをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーのソファでテレビを見ていただいたり、居室で読書や、折り紙など作成されたりしている。計算問題や塗り絵など自由にできるようにフロアーに設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に今までに使い慣れた家具や、食器などを持参して頂き少しでも安心した生活環境で暮らして頂けるよう配慮している。居室内に家族写真や本人が好きなものを掲示・設置している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室やトイレ 廊下などには手すりを設置している。居室には名札や花などの飾りをつけてわかりやすくし、自由に居室への出入りができるようにしている。歯磨きなど本人が把握できる場所になっている。		